

「一枚の写真がひも解く未来」

コース・専攻：国際交流・協力

グループ名：メダカの写真館

メンバー：塚原芳高（リーダー）、奥田昭仁、津村新、長野義則、久武鈴恵、宮田収、柳田ゆかり

写真に興味を持つ7人の集まりで、グループ名は童謡「メダカの学校」の歌詞「誰が生徒か先生か」から「上下関係はない」という意味で付けた。議論の出発点は「写真は私たちに『過去・現在・未来』について何を教えてくれたのか」という問いである。

まずは、写真とカメラの歴史と進化の背景について学んだ。1552年に写真術の原理が考案され、1839年に銀板写真を使った写真術がフランスで特許を認められた。ここから怒涛のごとく、写真・カメラは進化していく。この研究では各種文献はもとより、フィールドワークで訪れた東京の日本カメラ博物館や企業の写真歴史博物館で得られた知見も役立った。

我々は当初から気になった写真を集めていたが、それぞれ一枚を選び、その写真が撮影された経緯と、現在における意義について解析・考察した。

- ① 「ライト兄弟の初飛行」大空への挑戦の記録から航空機の歴史を調査し、未来に思いをはせた。
- ② 「アポロ計画」宇宙から見た地球が平和意識を高めることに着目し、宇宙開発では協力を願った。
- ③ 「M・モンロー」女優の殻を脱ぎ捨てた写真を撮影した写真家の人生観と影響力を研究した。
- ④ 「マンハッタンヘンジ」道路の中央に沈む夕日を目撃し、自然と人間の一体感を論じた。
- ⑤ 「ほめ写」子供の写真をほめることで自己肯定感を高める教育方法を研究した。
- ⑥ 「マン島の栄光」2輪車レースで日本人初の優勝をとげた社員ライダーの成果を調査した。
- ⑦ 「十河信二」新幹線生みの親の十河を研究し、NHK朝ドラ採用運動に共鳴した。

これら7つのケースに感じる共感の要素を分析した結果、「夢・感動・喜び・安らぎ」が最も共通したものになった。またそれぞれの写真が現在と未来に与えた影響を分析した。

一般論としての写真の未来についても議論をまとめた。デジタル技術の高度化やAIの利用が進むことで、写真の創造性が脅かされたり、フェイク発信の懸念もあるが、法整備などで課題を解決することにより利便性や快適性が増し、豊かな写真の未来が見えてくると思われる。

「一枚の写真」は全て過去の出来事であるが、そこには物語があり、歴史がある。その物語、歴史が写真を見た現在の私たちに、メッセージを送り未来への影響を残していく。送られるメッセージは常に進化するのであり、私たちは立ち止まり見つめ直すよう求められている。



2024年7月24日 東大寺大仏殿にて